

立憲民主党 野田はるみプロフィール

1958 2月14日生まれ。まだ豊かではなかった時代、服やおもちゃは手作りで、この幼少時代に創作意欲が芽生える。

1979 メルローズ入社

バブル時代の幕開け、女性が進出し始めた時代。国内外のアパレルブランドにおいてデザイン・マネージメントなど管理職として携わりながら、世界30か国ほど旅をする。

1993 バブル崩壊を目の当たりにし、さまざまな国を見た経験から、支えあう社会・環境・貧困へと意識がシフト。NGOフェアトレードなど幾つかの支援団体に関わる。

1998 natural & organic ECRU スタート

フィンドフォン*1への旅
「持続可能な未来へのクリエイティブ活動」をベースにマクロビオティック*2・地域通貨などコミュニティーカフェ運営コンサルタントからイベント主催・講演・執筆など多岐にわたる

2000 NPO BegoodCafe

「持続可能な社会と平和」をテーマに活動するNPOスタッフとして、現在は理事。パーマカルチャー*3ピレッジ「クリスタルウォーター」コミュニティータウン「マレニー」への旅

2004 素晴らしい環境と人間味ある街に惹かれ横須賀に移住

2009 トランジション葉山

地域の力で、気候変動を乗り越える市民活動のメンバーに

2010 服と幸せのシェア「xChange」

リメイク&古着ファッションショー主催@代官山・逗子にて

2011 東北大震災 支援プロジェクト「プレシャス」立ち上げ

毎月仮設に泊まり、仮設住宅の女性の自立支援活動。本が出版される

2017 コスタリカへの旅

軍隊を持たない、自然エネルギー推進国コスタリカに関心を抱き旅に。

2018 ブータンへの旅

国土の70%が自然に覆われ、自然と共生する人々、持続可能な社会への取組など今の日本に必要な要素を求め旅へ。

2019 神奈川県議会議員初当選

「持続可能な未来」を目指す中、年齢と共に誰もが経験する介護など家族間の関わりから、事業を縮小。いくつかのアルバイトをしながら家計を支える中、日本の未来へ希望が持たず、今の日本社会への課題を強く意識しました。生活に根差した市民や女性の視点を代弁できる県議の必要性を感じ、県政へ挑戦。僅かな資金、少数での選挙活動。友人・家族に支えられ、多くの方のご支援をいただき当選させていただきました。本当にありがとうございます!! 野田はるみは、まちの魅力を高め、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。

単にエコロジカルでなく
より美しく、よりオシャレに
暮らしをデザイン

2011~2016

支援とリサイクルを兼ねた5年間の活動
東日本大震災支援プロジェクト「プレシャス」



著書 左:「ハートフルなさき編み」
右:「Vegetable Lovers」(レシピ本)



自然療法・ヨガ歴30年。着物・陶芸・生け花・書など日本の伝統を嗜み、ヨーロッパ文化の建築や伝統にも魅かれる。趣味は旅と創作。

- *1 「コミュニティ」や「自然環境」、「スピリチュアリティ」がテーマのエコピレッジ
- *2 一物全体・地産地消・自然との調和を元にした玄米採食
- *3 農業の知恵を学び、現代の科学的・技術的な知識をも組み合わせ、人間の精神や、社会構造をも包括した「永続する文化」をかたちづくる手法

持続可能なまちを デザインします

SDGsと観光

国際文化観光常任委員として

昨年本県がSDGs未来都市に選定されました。県が掲げる「持続可能で発展的な観光施策への取組」はとても重要です。各地域の役割や位置づけを検討し、専門知識・資源を有する民間事業者と連携し、地産地消や環境に配慮した商品など、SDGs*1の視点を踏まえしっかり取組むよう求めました。



*1 SDGsとは 世界のリーダーたちが国連サミットで採択した17のゴール。「貧困の根絶と持続可能な社会の両立」「不平等(格差)の是正」をすべての国で創る未来の目標。

東京2020大会に向けて

スポーツ常任委員として

ラグビーワールドカップや東京2020大会では、神奈川県へも多くの観光客が訪れます。環境・社会・経済、また開催国のみならず世界に広く及ぶことから、持続可能性に配慮した準備・運営はとても重要です。ウォーターサーバーや海洋プラスチックの回収装置の設置、SDGsへのさらなる貢献を通して、より「魅力的なかながわ」となる取組を求めました。



東京パラリンピック聖火リレーは神奈川県内で3日間、15市町で行われます。パラリンピック聖火フェスティバルでの企画の提案をさせていただきました。パラリンピックや「ともに生きる社会かながわへ」の関心を多くの方が抱ける取組を求めました。

ともに生きる

治安・災害対策

安全安心推進特別委員として

ここ数年全国各地で災害が多発。いつ被災地となってもおかしくない神奈川県。災害にどう向き合うか、避難中も一定水準の暮らしの質が保たれるよう自治体や民間業者とも連携をし、自助・共助・公助による「減災対策」「避難対策」の強化と共に、5年間支援活動に関わった東日本大震災についても、未だ仮設住まいの方がいる中、1日も早く平和な暮らしが戻るよう、引き続きしっかりと支援することを求めました。



野田はるみ

横須賀選挙区選出
神奈川県議会議員



野田はるみ事務所

〒240-0104 横須賀市芦名1-4-10

TEL 046 856 8923 FAX 046 876 8013

www.harumi-noda.com

SDGs未来都市かながわに向けて 環境問題への取組の視察

活性化プロジェクトが進行する県西地域と、三浦半島のエコロジカルな取組



県西地域の 循環型第一次産業

*BiOTOPiA 大井町にある「未病バレー」ピオトピアは、民間企業と町の共同提案に基づいて県が設置した、「食」「運動」「癒し」をコンセプトにした「未病改善」の実践施設です

山地酪農への挑戦【薫る野牧場】

山北町の大野山山頂で、県内出身の29歳、島崎薫さんが始めた、自然に逆らわない酪農手法を見学しました。一般の配合飼料は使わず、野芝など自然の草を主食として、通年放牧で牛を育てる酪農で、牛の排泄物は土壌に還元、土地の肥料として次の草が育てる。牛たちが山を生かし再生する。幸せな牛からお乳をいただく酪農です。



くだけけ山農園【お山のたまご】

無農薬有機野菜と自然養鶏の生産者和田さんご夫婦にお話を伺いに行きました。西丹沢大野山の中腹、人間が人間らしく生きていくのに大切な体験がたくさんできる「くだけけ生活舎」では山の生活を一緒に楽しむこともできます。



県政として… 未来へ向けて

山奥の CreativeLife・循環型の酪農・農業は、SDGsが目指す目標にもつながります。海・山と自然豊かな神奈川のさらなる魅力発信として、持続可能な食文化を広げていきたいと思えます。

めぐりの森 植樹祭 【湘南国際村】

緑の再生と保全を目指し、毎年行われている植樹祭に参加。人類が未来を健全に生き延びるために、国境を越え、民族・宗教など様々な枠を越えて、木を植え森をつくる事を世界に発信されている理学博士でドイツ国立植生研究所研究員の宮脇昭先生にもお会いできました。



今まで世界で4000万本の木を植え続けてきた実践と哲学「いのちの森づくり草の根運動」を、このオリンピック・パラリンピックにおいても広めて行くべきです。

大地の再生【有機アスファルト】



有機アスファルトで大地を再生。人と人、人と自然が繋がる場には優しいエネルギーが流れ、心地よい場所でした。

シュタイナー幼稚園と児童福祉施設の建設が予定されている横須賀市の山間部で開催された、大地の再生講座のひとつ「有機アスファルト」に参加しました。明石市では行政が一部の道路にも採用しており、ヒートアイランド現象の原因のひとつでもある、黒く熱を持つアスファルトから有機アスファルトにすることで、水と空気の循環が土中の中で行われ、豪雨の洪水やがけ崩れなどのリスクも減らせる可能性を秘めているという技術です。

持続可能な取組はあらゆる分野で必要です。エコロジカルデザイン・環境デザインとして、自然のエコシステムを参考に社会や暮らしを変化させていく取組を広げます。

三浦半島の 自然を守る



つくる責任・つかう責任【ゴミ問題】

日本はゴミの焼却場の数が世界一です。さらに一人1キログラムのゴミを毎日出しており、家庭から出るゴミは年間で1~2トン。ゴミ焼却量は、ヨーロッパの環境先進国の10倍以上！ダイオキシン排出量も世界一です。これほど多くのゴミを出し、燃やしている日本。プラスチックゴミ・食品ロス問題はじめ、不法投棄など、ひとりひとりの日常生活の見直しが今、求められています。



左上/ビーチクリーニングにも積極的に参加。左下/環境先進国では当たり前ゴミの分別。右/横須賀の畑に不法投棄されたテレビ。ゴミへの意識が問われています。

ごみを減らし、発生させない、買ったらずてない4R《REUSE（再使用）RECYCLE（リサイクル）REDUCE（減らす）REFUSE（やめる→ゴミになるものは買わない）の推進を。

野田はるみの 政策プロジェクト ゆたかな かながわを デザイン



くらし 安心できる地域をつくる

ケアビレッジ計画

3割以上が空室の県営団地を、クリニックやデイサービス、小規模保育など福祉ケア機能を充実させ「ケアビレッジ」として再生させます。

貧困の連鎖を断つ

ケアビレッジの入居は低所得者、母子家庭、独居高齢者などを優先し、児童養護施設などへの転用を進め、生活支援事業を開始します。

自然エネルギー

太陽光、風力、バイオマスなど、自然エネルギーを普及させ、大規模停電にも強く、原発にも頼らない、安心の地域をつくりま。

食 三浦半島のブランド化

エコ・ビレッジ計画

豊かな三浦半島の食と、持続可能な環境を学んで体験できる滞在型施設「エコ・ビレッジ」として湘南国際村をリニューアルし活性化します。

ゆたかな農水産物

独自の三浦半島版エコ認証で農産物のブランド力を高め、市場に出回らない地魚も流通させ、農業・漁業収入の向上をはかります。

循環型の食農

横須賀市と連携し生ゴミからの堆肥を地域の有機農家等に安価に提供する循環システムをつくりま。ゴミ処理の広域化も支援します。

教育 誰もが学べる社会

まな・ビレッジ計画

フリースクールは公的支援がなく経営が厳しいのが実情です。多様な学校を「まな・ビレッジ」として認定し、県独自に助成します。

共生プロジェクト

世代・国籍・ハンディキャップを抱えたあらゆる人たちとの交流の場をつくり、ともに生きる社会の中で、地域の賑わいを創ります。